（第３種郵便物認可）　日本海新

市政運営まずさ露呈

ニュースの焦点

調整力不足、混乱招く

児童や保護者、地域住民を混乱させた倉吉市の「成徳小」の校名について、市は4日開会の市議会12月定例会で新年度から「打吹小」に変更する条例改正案を提案し、再び市議会に判断が委ねられた。一方、二転三転の末に当初の公募で圧倒的多数を占めた「打吹小」が最終候補となったことに関して市民から「これまでの議論は何だったのか」と市や市教委の行政手腕に対する憤りが噴出。校名問題を端緒に、市政運営のまずさが浮き彫りとなった。

（井田慎一）

一連の騒動で市政運営の課題が浮き彫りになった「成徳小」の校名問題。新校名「打吹小」への変更について議会で再び審議される＝4日、倉吉市仲ノ町

倉吉統合小学校校名問題の経緯

2022年6月	▸統合準備委が新校名案に「至誠」を選定
9月	▸広田市長が市議会定例会に議案取り下げを申し出るも議会が不承認
	▸継続審査とする教育福祉常任委報告を否決し「至誠」を可決
10月	▸住民グループが「至誠」廃止を求める直接請求に向けた署名活動開始
12月	▸住民グループが「至誠」と定めた条例廃止を直接請求
	▸広田市長が市議会定例会に条例を廃止する議案を提出し市議会が可決 校名選定は統合準備委に差し戻し
	▸統合準備委が新たな校名候補に「打吹至誠」を選定
2023年1月	▸臨時会で校名を暫定的に「成徳」とする修正動議が可決
4月	▸暫定校名のまま新「成徳小」開校
8月	▸市教委が2024年度からの正式校名移行を表明
10月	▸在校生世帯などへのアンケートの結果、「打吹」が最も支持を集める
11月	▸市学校教育審議会への諮問を経て、市教委が正式校名を「打吹」に決定

■1対150

全国的に大きな関心を集めた発端は昨年6月、統合対象の成徳、灘手両地区の住民や保護者による統合準備委員会の選定。事前公募で最も多い150件の応募があった「打吹小」ではなく、1件のみの「至誠小」が選ばれたことが分かり、住民グループによる条例廃止の直接請求などに発展した。校名の選び直しなどが行われたものの、今年1月の臨時会で将来的な変更を前提とし「成徳小」を維持する修正動議が可決され、今年4月に暫定的に「成徳小」のまま開校した。

市教委は8月に来年度からの校名変更方針を決定。仕切り直して9～10月に2回の投票を実施し、最も支持を得た「打吹小」を正式校名とした小中学校設置条例の一部改正案を12月定例会に上程した。

■あきれ顔

「あの議論は何だったのか」―。1年以上を要したに決まったことに関係者にあきれ顔だ。統合協議に携わった灘手地区の60代男性はぶぜんとした表情で「最初から市教委が議論を主導していれば良かっただけの話」と声を荒らげる。

成徳地区の40代保護者も協議について、「意見の隔たりが埋まらないまま、地域に重い責任がのしかかった。市に主導権を握ってほしかった」と語気を強める。過熱報道にストレスを感じる保護者も多かったといい、「子どもも保護者も打ち解けている。静かに暮らさせて」と訴えた。

■行政の役割

市教委が議論を主導することはできなかったのか。小椋博幸教委長はこれまでの経緯について、「地域間合意がないと進まないという大前提があった」と説明。今後も予想される学校統合に関し、「（市教委が）主導できる地域と、そうでない地域があると感じている」と市教委が主体性を持つやり方には慎重な考えを示した。

しかし、市職員OBの70代男性は問題が長期化した原因を市の危機予見能力と調整力不足だと指摘。「主のが行政の役割。少数案『至誠』を選べば混乱が じるのは明らかで、行政 主導する必要があった」 苦言を呈した。

新年度から校名変更 条例改正案など提案

倉吉市議会開会

倉吉市議会の12月定例会が4日開会し、暫定的に「成徳」となっている統合小の校名を新年度から「打吹」に変更する条例改正案や、本年度一般会計補正予算案など18議案が提案された。先議分では、フィギュア製造会社「グッドスマイルカンパニー」に第2工場として貸し付ける工場整備工事の請負契約を原案通り可決した。会期は20日までの17日間。

同予算案は2億6404万円を追加し、補正後の総額は344億4305万円。主な補正は、来年度に開校する新しい小鴨小と久米小の改修や備品購入など9757万円▽ふるさと納税による寄付の増加を受けた返礼品の追加購入など4448万円―など。伯耆 あわせの郷などの指定管理者選定も盛り込んだ。

一般質問は5～7日に つる。（井田慎一）

市立中適正配置 来年度から検討

生徒減で倉吉市教育長

倉吉市の小椋博幸教育長は5日の市議会本会議で、生徒数の減少が見込まれる市立中学校に関し、来年度から統合や校区再編を含む適正配置に向けた検討を始める意向を示した。藤井隆議員（やらいや）の一般問に答えた。

藤井議員は小中学校適正規模に関する2010年度市学校教育審議会答申などに触れ、「今後の学校再計画は」と質問。小椋教育長は29年度には市立中学の生徒数が本年度より40人近く少ない1090人まで減少するとし、「（全校生徒数が）久米中は100人、鴨川中は60人を下回る見通し。来年度からでも検討を始めたい」と答えた。

検討期間や議論の進め方については、「10年、20年先を見越し、学校教育審議会など何らかの機関を設置して児童・生徒数の推移や校舎の耐用年数などデータを示しながら意見をうかがいたい」と述べた。

閉会後、小椋教育長は「生徒数が減れば、教育活動などに制限が出てくる。保護者や地域の意向を聞きながら慎重に進めたい」と話した。（井田慎一）

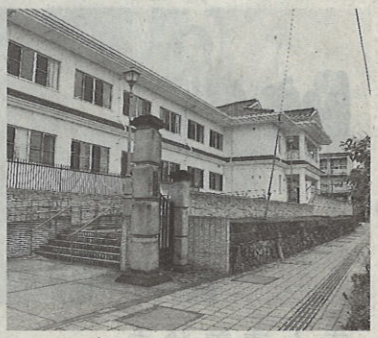
日新聞　第3種郵便物認可

「打吹」案 目立った議論なく

倉吉・新小学校名 20日に採決

「至誠」「打吹至誠」「成徳」と二転三転した倉吉市の新小学校名問題が、まもなく決着を迎える。市議会厚生文教常任委員会は15日、校名を「打吹」とする学校設置条例の改正案を全会一致で可決。20日の本会議で採決されるが、このまま可決される見通しだ。市議会が一度は「至誠」と可決してから1年余り。その市議会でも今はもう目立った議論はない。

この日の委員会では、「教育委員会に(打吹案への)反論は来ていないか」との委員からの問いに、市教委事務局は「特に把握していない」。校名案についての議論は約10分で終わった。5～7日にあった一般質問でも、ほとんどこの問題は取り上げられなかった。



旧成徳、灘手両小学校が統合した新「成徳小」。来年4月に「打吹小」になる見込みだ＝倉吉市仲ノ町

市議会委、全会一致で可決

倉吉市教委は2021年3月、成徳、灘手、明倫の3小学校統合を決めた。先行して成徳、灘手2校を統合し、今年4月に新小学校が誕生した。その校名で、もめた。

22年、両校の地域代表や保護者代表らで作る統合準備委員会は、公募で寄せられた校名案の中から「至誠」を選んだ。同年の9月定例会で市議会は条例改正案を可決し、正式決定した。

だがその議会で、公募では「至誠」は1件だけで、倉吉のシンボルとして親しまれている打吹山にちなんだ「打吹」が最多の150件だったことが明らかに。公募は「票数」で競うものではなかったが、選定過程に不信感を持った市民有志が、改正条例の廃止を求めて市長に直接請求。市議会は12月定例会で、3カ月前に可決したばかりの「至誠」を撤回した。

二転三転 市民の不信感ぬぐえぬまま

年の瀬の12月26日。差し戻され再協議した統合準備委は、灘手側が当初推した「打吹」、成徳側が推した「至誠」を合体させて「打吹至誠」と決めた。双方とも折り合わず、妥協の産物だった。

だが市議会は待ったをかけた。市議の一人は「至誠よりも、打吹至誠の方が市民の反発が大きかった」。今年1月17日の市議会臨時会では、市民の反発を憂慮する意見と、あくまで統合準備委の決定を尊重するべきだとする意見とが拮抗。「現状維持」として、統合後にも校舎を使い続ける「成徳」を新校名とする修正動議が出され、8対7の僅差で可決された。

怒ったのが灘手地区の住民らだ。そもそも元々の校名の「成徳」「灘手」「明倫」は新校名には使わないという前提で協議は進んできた。2月の灘手地区での住民説明会で市長は「成徳は暫定的な校名」と表明したが、「これじゃ吸収合併だ」「仮の名だったら『灘手』でもいいじゃないか」と、怒りの声が相次いだ。

市教委は9～10月、各方面から寄せられた「子どもと保護者を中心に議論するべきだ」との声を受け、3地区の児童・未就学児の家庭にアンケートを実施。ここからは順調に進んだ。「打吹」が最多を集め、現在開会中の市議会12月定例会に提案された。

15日の委員会後、市議の一人は取材に「(打吹案は)きちんとした『民意』が確認された結果だ。統合準備委の意見を全体の意見として通そうとした教育委員会は機能不全だった」。別の市議は「児童や保護者に決めていただくのが一番だと考えてきたので、良かったと思う。混乱の原因は、当初情報公開が不十分だったためだ」と話した。

一方、灘手地区の統合準備委員だった男性は、今回の問題がまもなく決着を見せることについて、「結局、打吹ですか……」とあきれ顔だ。折り合わない灘手、成徳地区の意見を、議論を重ねて懸命にまとめてきた自負がある。

「積み重ねが議会に全部潰された。君らの議論は無駄だった、と言われた気分だった」。議会、市教委への不信感はぬぐえぬままだ。（奥平真也）

12.16(朝日)

る反省の弁が並んだが、着服した230万円の使途については触れられていない。意見書は県議会事務局ホームページの「記録・報告」の政治倫理審査会の欄から確認できる。（福谷二月）

「打吹小」、常任委で可決

校名変更 20日の本会議で採決へ

12.16

倉吉市の統合小学校「成徳小」の校名について、市議会厚生文教常任委員会は15日、新年度から「打吹小」に変更する条例改正案を全会一致で可決した。20日の市議会12月定例会最終日に本会議で採決が行われ、1年以上にわたり議論の続く校名問題の結論が出る。

委員会で、委員らは「校名変更に反対意見はないか」「明倫小との統合の際、校舎はどうするのか」などと質問。市教委は「反対意見は把握しておらず、保護者からも不満は出ていない。（校舎は）統合の話が出てきてからと考えている」と答えた。校名の是非に関する意見はなく、委員長を除く7人全員が校名変更を含む小中学校設置条例案の一部改正に賛成した。

終了後、山根健資委員長は児童や保護者への投票で校名を決めた手続きを「透明性が高く反対する内容がない」と評価。「校名が決まらない状況は子どもたちに悪影響だった。粛々と進めたい」と述べた。（井田慎一）

海新聞　（第3種郵便物認可）

倉吉・統合小校名問題

「打吹小」で決着

市議会全会一致で可決

12.21

倉吉市議会は12月定例会最終日の20日、成徳、灘手両小学校を統合した学校名が暫定的に「成徳小」となっていることについて、来年度から「打吹小」に変更する条例改正案を全会一致で可決した。二転三転した校名問題は、当初の市民公募で最多だった「打吹小」で決着した。（井田慎一）

条例改正案に賛成して起立する議員＝20日、倉吉市役所の議場

校名変更を定めた小中学校設置条例の一部改正案は、本会議の委員長報告で厚生文教常任委員会の山根健資委員長が「原案通り可決すべき」と報告。質疑や討論はなく、採決の結果、全員が賛成して可決した。

閉会後、広田一恭市長は「きちんと取り組めば、もっと早く理解してもらえる決定につなげられた。心よりおわびを申し上げる」と1年以上にわたった混乱を陳謝。児童や保護者などの投票で選び直した手順について「成功事例として生かしたい」と自戒した。

一連の校名問題は、2022年6月の事前公募で最多の「打吹」ではなく、1件の「至誠」が選ばれたことを端緒に住民グループが反対の署名活動を展開。23年4月の統合後も、正式な校名が定まらず暫定的に成徳小となっている。

今後の再編について、小椋博幸教育長は「市教委が主導する手法は地域の賛同を得られない」と強調。引き続き、保護者や住民が参画する統合準備委員会が議論の主体となることが望ましいとの見解を示した。一方で議論がまとまらない場合、市教委が解決策を提示するなど議論に加わる考えも明かした。

12月定例会ではこのほか、追加提案された市特別職や職員の期末手当などを含む8809万円を追加した本年度一般会計補正予算案など29議案と、地方議会議員に厚生年金加入を求めるなどの議員発議3件を原案通り可決、同意し、保育士配置基準引き上げを求める陳情を採択して閉会した。補正後の総額は351億4986万円となった。

記者の手帳

行政が積極的にかじ取りを

全国からも注目された倉吉市の校名問題は、1年以上の曲折の末に結論が出た。混乱の要因は、行政が主体性を発揮できなかった点に尽きる。議論を委ねられた、住民や保護者でつくる統合準備委員会は妥協が困難な状況に陥り、関係者の間では「市教委が議論をリードしていれば、もめずに済んだ」との思いが根強く残った。市教委は今後の再編についても、統合準備委が議論の主体となる枠組みを維持する方針だ。同じ事態を繰り返さないためにも、受益者である児童生徒や保護者の意向が最優先されるよう、行政が積極的にかじ取りを行うことを強く求める。（井田）

月　日　新　聞　　第3種郵便

新校名「打吹」に決着

倉吉市議会 全会一致で可決

12.21

二転三転した倉吉市の新小学校名をめぐる問題が、ようやく決着を見せた。今春に開校したばかりの成徳小の校名は、来年度から「打吹（うつぶき）」になる。

倉吉市議会は20日、新校名を「打吹」とする条例改正案を全会一致で可決した。質疑はなく、採決では議長を除く15人全員が起立した。

「至誠」案が可決された昨年9月の定例会から約1年3カ月。「至誠」「打吹」「成徳」と変遷した校名問題はようやく決着した。成徳小は1873年に前身が創立、1878年に「成徳」の名となった。約146年を経て、その名が消えることになる。

市教育委員会は2021年3月、成徳、灘手、明倫の3小学校の統合方針を決定。先行して今春に成徳、灘手の2校を統合し、新小学校が誕生した。

成徳、灘手地区の住民代表らで構成する学校統合準備委員会は22年6月、公募で寄せられた案から「至誠」を選んだ。だが、その議論は非公開で、公募では寄せられていたことも明らかにされなかったことが、市民の不信感を招いた。

結局、市民の市長への直接請求を受け、市議会は一度可決した「至誠」を撤回。準備委が再提案した「打吹至誠」も認めず、統合後も校舎を使い続ける「成徳」の校名で今春の開校を迎えた。市教委は今秋、統合対象3地区の保護者らにアンケートを実施し、最多だった「打吹」を市議会に提案していた。

市長、情報公開不足を「反省」

広田一恭市長はこの日の閉会後「ほっとしている」と安堵（あんど）の表情を見せ、「児童も含め、地域にご迷惑をおかけし心よりおわびを申し上げる。申し訳ない1年間だったと思う」と謝罪。情報公開不足の指摘について「しっかり反省する。（今秋のアンケートで）地域の声に耳を傾けたことでスムーズに決められたことは、勉強になった」と述べた。

小椋博幸教育長は「情報公開が足らなかったことは反省すべきだと思っている。これからは全部出して、順次経緯を説明するべきだと思う」と話した。

今回の経緯について、塩誠』の決定過程が不透明だった。決定内容そのものよりも、プロセスの方が、住民不信につながりやすい」と指摘。一方、市民の直接請求が市や市議会を動かしたことについては「市や議会の役割を市民運動が補った。民主主義のプロセスの一つとしては、肯定的に評価できる出来事だった」と話した。

江藤俊昭・大正大学教授（地方自治）も「公募したのだから（公募結果は）当然公開されるべきだった。公開だけでなく、市民が納得いくよう説明責任もある。市教委も『至誠』が妥当かどうか議論をしたのかどうか」と、当初の準備委地域のもの。中身について住民が提案し、首長や教委はその声をしっかり聞く必要がある」とした。その上で「ちゃんとしていたのは市民の方々だったということだろう。直接請求など、市民が大事な仕事を果たした」と述べた。

市内の別の地区での小学校の統合では、今回の混乱の反省をふまえて議論が進められた。「北谷」と「高城」の統合準備委では、1月の第1回会合で「成徳と灘手のような事態はあってはならない」との声が出た。会合は傍聴可とし、議事録公開などの情報公開にも努めたという。

（奥平真也）

倉吉市の新小学校名をめぐる経緯

いとく　なだて　めいりん
成徳、灘手、明倫の統合方針が決定。
3年に成徳、灘手が先行して統合することに

学校統合準備委員会が新校名を公募
、「至誠」を選ぶ　**至誠**（しせい）

市議会が新校名を「至誠」とする条例改正案を可決

は1件、地元ゆかりの地名である打吹（うつぶき）が
の150件だったことが判明

れた校名案

	至誠	打吹	倉吉第一 倉吉中央 羽衣
案341件、9種類	1件	150件	その他

市民団体が「至誠」の撤回を求め、市長に直接請求

「至誠」の校名を市議会が撤回

統合準備委が新校名を「打吹至誠」と決定　**打吹至誠**

市議会は「打吹至誠」を認めず、修
正動議で提案された「成徳」を可決　**成徳**

成徳、灘手の2校が閉校

新「成徳小」開校

市教委が統合対象3地区の児童・未就学児の世帯
にアンケート

市教委が新校名を「打吹」に決定
アンケートで最多）　**打吹**

0日、市議会が「打吹」を可決

24年4月　「打吹小」誕生へ